

海水資源・環境シンポジウム 2008

—海水資源の有効利用を考える—

日本海水学会 海水資源・環境研究会
代表 柘植秀樹

わが国はエネルギー、食料、鉱物などの資源を海外からの輸入に頼っていますが、近年の資源の枯渇や価格の高騰など様々な問題が顕在化する中、資源の確保がますます困難になることが予測されます。

そこで、日本海水学会 海水資源・環境研究会は、海水を資源として考えた利活用、海水環境の保全に関する技術の構築を目指しています。

本シンポジウムでは、海水資源の利用、開発など様々な課題について、現在の研究成果、産業化における情報を持ち寄り、海水資源利用に関する理解・認識を深めることで、海水資源の有効利用について新たな展開を探索していくことを目的としています。

記

- 主催 : 日本海水学会 海水資源・環境研究会
共催 : (財)ソルト・サイエンス研究財団、日本海水学会若手会
協賛 : (社)化学工学会、分離技術会、(社)日本粉体工業技術協会
開催日 : 平成 20 年 8 月 4 日 13:00 ~ 17:00 (シンポジウム終了後、技術交流会の開催を予定しております)
会場 : 東京農工大学小金井キャンパス 11 号館 5 階多目的会議室 (東京都小金井中町 2-24-16)
講演内容 : 以下の通り、6 つの講演とパネルディスカッションを予定しております

講演①	わが国における海水資源利用の現状	(財)塩事業センター 海水総合研究所 所長 長谷川正巳
講演②	海水淡水化技術の動向と課題	MHI ソリューションテクノロジーズ(株) 技師長 芹澤 暁
講演③	製塩技術の動向と課題	ナイカイ塩業(株) 代表取締役副社長 藤田武志
講演④	炭酸カルシウム利用技術の動向と課題	奥多摩工業(株) 顧問 田中宏一
講演⑤	レアメタルなどの確保における動向と課題	日本化学工業(株) 技術推進本部長 山崎康夫
講演⑥	海水資源利用に関する技術開発の現状	慶應義塾大学 名誉教授 柘植秀樹
パネル ディスカッション	海水資源の有効利用を考える	東京農工大学 准教授 滝山博志

参加費 : 3,000 円、学生 1,000 円 (いずれも技術交流会参加費を含む)

当日会場にて徴収させていただきます

定員 : 100 名 (先着順とさせていただきます)

問合せ先 : 〒256-0816 神奈川県小田原市酒匂 4-13-20

(財)塩事業センター 海水総合研究所

淵脇 哲司

Tel : 0465-47-3161 Fax : 0465-48-6242

E-mail : shigen@swsj.org